

■これまでの経緯について

- 2020年に渋谷駅中心地区広場ビジョンとして、駅前広場等に加え公開空地等も対象に、渋谷ならではの広場空間のあり方を提案しました。
- 昨年12月には、西口上空施設が地区計画に位置づけられ、サクラステージが完成するなど、駅周辺の広場空間の検討・整備が進捗し、まちづくりに資する広場の役割への期待が高まっています。
- 一方で、2011年の東日本大震災や2024年1月の令和6年能登半島地震、また昨今の駅前広場周辺における治安面を踏まえて、地元から防災や安全に対する備えの必要性の意見も多く出ています。

将来像



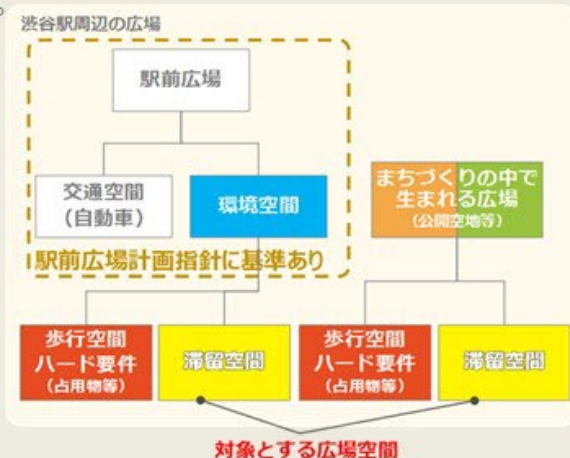
■対象エリア

渋谷駅中心地区を対象とし、周辺の状況を見つつ、渋谷駅直近の開発街区における考え方を中心地区全体に広げていきます。



■対象とする広場空間

駅前広場のうち交通空間（自動車）を除く環境空間、および公開空地等の広場から、歩行者に必要な空間と大規模な占用物などのハード要件を除いた「滞留空間」を対象とします。



将来像の実現に向けた考え方

広場機能の配置と考え方

機能ごとの配置の考え方

渋谷駅中心地区の**広場空間に求められる機能を5つに整理**しました。一般的に必要な機能に加え、渋谷ならではの地形や文化、まちづくりなどから生まれてきた機能を、渋谷駅中心地区の広場空間は担っています。ここでは、**各機能について、どのような性質の広場がどのように配置されることが望ましいか、考え方のポイントを整理**しています。

ゲート
(待合せ)

憩い・潤い・
リラックス

交流・
にぎわい

情報発信

防災
(非常時)

方面ごとの配置の考え方

対象エリア周辺は方面によってまちの特性が異なっており、まちと駅をつなぐ**広場空間に求められる機能はまちの特性によって重要度が異なります**。ここでは、土地利用や歩行者交通などに関する対象エリア周辺の特性から、**JR線と国道246号で分けられる各方面の広場空間に具体的にどのような機能が期待されるかを整理**しています。

北西方面

北東方面

南西方面

南東方面

広場整備の誘導方策

必要な機能を適切に確保し、将来像を実現するための、様々な段階での対応・調整について、「**適切な機能確保の考え方**」および「**留意する事項**」を整理しています。

管理・運営の仕組みづくり

たくさんの人にとって使いこなしやすい広場空間となるよう、**持続可能な管理・運営の仕組み**を作っていくための考え方を整理しています。

■今後進め方

- 今後は、これらの動向とアンケートやヒアリングを踏まえつつ、「管理・運営」の考え方の深度化と広場ビジョンのブラッシュアップを図り、広場空間の上位計画として位置付けていくことを考えています。

アンケート・ヒアリング

STEP 1

あるべき姿を描く

- **地域住民**が渋谷駅周辺の広場でどんなことを実現したいか。
→過去の意見整理や、防にぎをにおける意見収集
- **渋谷区**として渋谷駅周辺の広場でどんなことを実現したいか。
→上位計画等から改めて整理
- **来街者**が渋谷駅周辺の広場でどんなことを実現したいか。
→Webアンケートの実施
- **広場運営者**（既存）
→意見交換・ヒアリング
- **広場利用者**（イベント企画など）
→意見交換・ヒアリング

STEP 2

あるべき姿に対して、課題となる事項を整理する

- 現況との差分を整理
→現況把握結果をもとにあるべき姿の中で実現できていないことを整理
- 顕在化している課題の整理
→地域住民からの要望や、広場使用者のヒアリング、来街者アンケート等から整理

STEP 3

課題の解決案の検討

- 整理した課題に対する解決策を検討

STEP 4

最終的なアウトプット作成

- 広場空間の管理運営に関する考え方を整理
- 広場条例等のルール作りの根拠となるように位置づけていく

現在、検討中

STEP 1 あるべき姿を描く～地域住民・区・来街者・広場運営者・広場利用者の意見まとめ～

1 地元の皆さんの広場に対するご意見（防災・にぎわいなど広場分科会（地元住民との会議）での意見）

・ 防災・にぎわいなど広場分科会にて、自身の関わりが深い広場や渋谷駅周辺の広場に対して求めるものを整理しました。

分類	広場に求めるもの
広場の維持管理（清掃等）	・夜間は飲み物の缶や煙草の吸殻等のゴミが多数 ・適切に使用され、清掃・維持管理が行われる体制を確保してほしい ・食品の不法投棄も問題
広場の機能	・公共空間が少なくトイレもない ・無線LANの整備 ・ベンチ等の設置（⇔管理が課題） ・夏の暑さは要検討 ・夜間発災時にすぐに解放されるよう、夜間施錠をやめてほしい ・イベント開催可否も大切だが、防災機能を備えたものであってほしい ・防災面で一時的に人が滞在できる空間が少なすぎる。商業的すぎる広場整備はやめてほしい
広場の規模	・広場が狭すぎる ・景観、環境保全、レクリエーションの機能が求められるが人口に対して不十分 ・貧乏くさいサイズではなく、渋谷に集まる人を受け止められるような十分なキャパシティのある広場を整備してもらいたい
広場のあり方	・自然に街中の風景として溶け込んでいるべき ・公共性、防災面を重視してほしい ・防災の機能を備えた広場として実現 ・周辺の緑化などをまちづくりの観点から考えてゆくべき
広場の使い方	・地域や個人にもチャンスが与えられるような公共性の高い利用方法を模索してほしい ・車両が通行しないところで何かしたいという声はある ・（空間は大きくないが）小規模イベントには適当な広さの場所もあるので、周辺の雰囲気も含め活用したい
検討の進め方	・住民や働く人々の意見を柔軟に吸い上げてほしい

緑字：期待・ポジティブ 赤字：課題

2 渋谷区の上位計画や社会の潮流

- 区の上位計画や、社会の潮流から、期待されている広場の使い方について整理しました。

まちづくり指針2010では、まちの運営・活動段階では、**様々なまちづくり活動の情報連携**を行うこととしています。

戦略7 “みんなで育てるまちづくり”

～協働型まちづくりによる渋谷の将来像の具現化～

■ 各段階に対応したエリアマネジメント活動 <例示>

(1) 事業実施段階（対象：主に大規模開発事業等）

様々な事業間の計画調整の取組	- 歩行者ネットワークや、駐車場ネットワークなど、複数事業間での調整の場を持つことで、効果的・効率的な計画づくり - 建物・施設等が相互に連携する防災対策の検討
工事中の安全性・利便性確保の取組	安全確保や交通動線確保はもとより、周辺の都市活動にも配慮し、まちの魅力を維持向上させるための情報発信等の取組

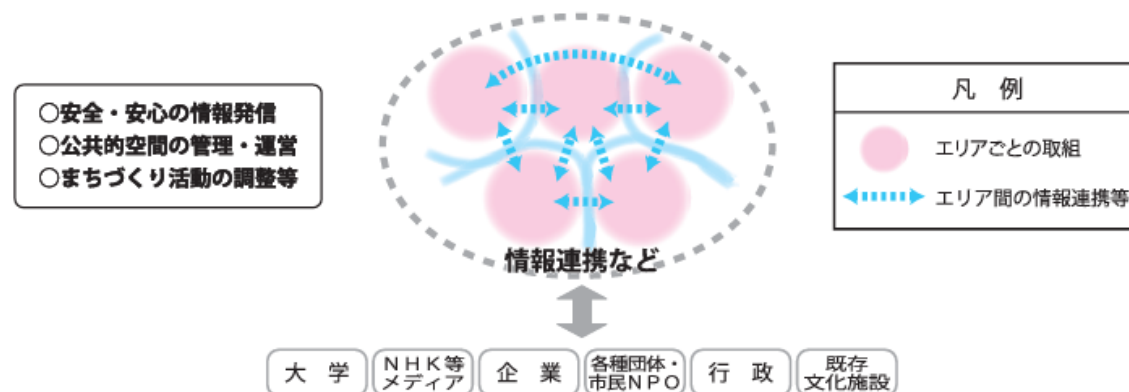
(2) 施設管理の段階（対象：主に大規模開発事業等）

防犯・防災の取組	- 災害時の情報発信や、一時避難施設の運営等に関するマネジメント - 防犯パトロール
公共空間・歩行者ネットワークに関する一体的、効率的、高質な管理の取組	- 駐車場の地域管理体制の導入と運営 - 歩行者通路や縦軸空間の管理運営
都市環境等の改善に関する取組	- エリアエネルギー計画や効率的なごみ処理、まちの美化活動の統一化・ルール化 - 来街者にとって安全・安心を感じられる歩行環境（景観・環境）形成の取組

(3) まちの運営・まちづくり活動段階（対象：全地域）

様々なまちづくり活動の情報連携	まちの各所、各団体が行う活動の日程調整など、情報連携によって効果的なまちづくりを実現
-----------------	--

■ エリアマネジメントのための連携イメージ



社会の潮流として、コロナ禍を経て交流や防災にとどまらず、**まちに付加価値をもたらす広場への期待**が大きくなっています。

【論点3】オープンスペースの今後のあり方と新しい政策の方向性

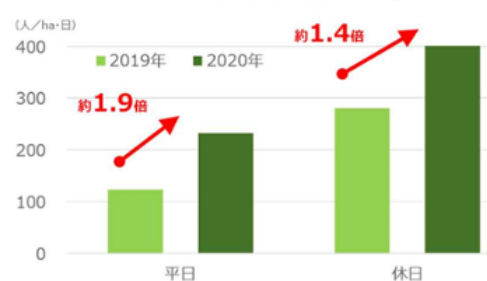
<新型コロナ危機を契機に生じた変化>

- 自宅で過ごす時間が増え、身近な自然資源として、運動不足の解消・ストレス緩和の効果が得られる場として、グリーンインフラとしての緑や、オープンスペースの重要性が再認識。
- 緑とオープンスペースは、テレワークの作業場所、フィットネスの場所等利用形態が多様化。災害等の非常時に対応するためのバッファー機能として、都市の冗長性を確保する観点からも役割が増大。
- オープンスペースを有効に活用するため、エリアマネジメントの中心的な存在として、信頼できる中間支援組織の存在、効果的に活用するための人材育成の必要性が高まっている。

<今後の方向性>

- グリーンインフラとしての効果を戦略的に高めていくことが必要。
- ウォークアブルな空間とオープンスペースを組み合わせるネットワークを形成することが重要。
- 街路空間、公園・緑地、水辺空間、都市農地、民間空地など、まちに存在する様々な緑とオープンスペースについて、テレワーク、テイクアウト販売への活用といった地域の多様なニーズに応じて柔軟に活用することが必要。
- 災害・感染症等のリスクに対応するためにも、いざというときに利用できる緑とオープンスペースの整備が重要。
- イベントだけでなく、比較的長期にわたる日常的な活用（例：オープンテラスの設置）など、柔軟かつ多様なオープンスペースの活用の試行、これを支える人材育成、ノウハウの展開等が必要。

3月の公園利用者数は前年比で増加



(出典)都立狭山公園、都立武蔵国分寺公園、都立野川公園のデータから国土交通省都市局作成

出典：デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会 資料
(<https://www.mlit.go.jp/common/001367496.pdf>)



- より幅広く、まちに付加価値をもたらす広場の使い方が期待されている。【社会の潮流】
- それぞれの広場では自由で多様な活動を行い、相互に緩やかに連携することを目指す。【区の計画】

3 広場運営者・イベント企画者へのヒアリング

- 実際に渋谷駅周辺で広場の運営やイベント企画等に携わっている渋谷エリアマネジメント、及びイベントを実施しているイベント会社（2社）に、実際に渋谷駅周辺の広場を利用するにあって感じている意見等をヒアリングしました。

分類	広場に求めるもの
広場の特徴	- 他都市と比べ、圧倒的な人流と若い客層が渋谷の特徴（原宿、表参道、新大久保等とは毛色が違う）であり、若者をターゲットとする場合は必須の場所 - 渋谷は今後外国人向けの需要が高くなる
広場の使いやすさ	- 渋谷の広場は現状狭いところが多いので、使いにくい - 公共の空間でのイベントは安全面が課題
イベント企画時に広場に期待すること	- 自動車の配置（展示）、サイネージ、屋根、分電盤の有無、ステージ設置、壁面がどこまで使用できるか、音出しの可否、機材の搬出入、搬入車両の動線、夜間以外の作業可否等、空き情報等。 - 使用できる空間が100㎡あると様々なことができる。 空間情報が共有・可視化されると使いやすい（民間会社が公開しているものはあり）
広場を運用していく上での課題	- 最近の駅周辺の治安が悪い - 渋谷駅周辺で開催するイベントも、大半をボランティア運営で進めるものは管理が難しい - 広場の空き情報やルールなどは個別で確認するしかない。
広場のあるべき姿	- 全てを完全排除するのは難しいが、ルールをしっかり作り、その上で地元が動くことができ、政治的な部分が入らないような仕組みが大事 警察とも協力できあえる体制を作らないと今後は安心した広場活用も難しい - ルールを決め、適正な使い方で広場を使う人が増えることで、現在非合法的な使い方をして いる人たちが少なくなるといい
今後の議論の方向性	- エリマネ単独というよりも周辺の商店街などと連携できることが大切 - 民間施設に何か強いるのは難しいと思うが、安全関係等、情報を一同で共有できる場はあった方がいいと思う - 地元の実務者レベルの方と連携できる場が望ましい 関わる人たちが皆で同じテーブルで話す場が必要。民間施設、道路管理、鉄道など、一同に介して情報交換や共有ができるとよい

緑字：期待・ポジティブ 赤字：課題

4 来街者における広場に対するアンケート調査結果（概要）

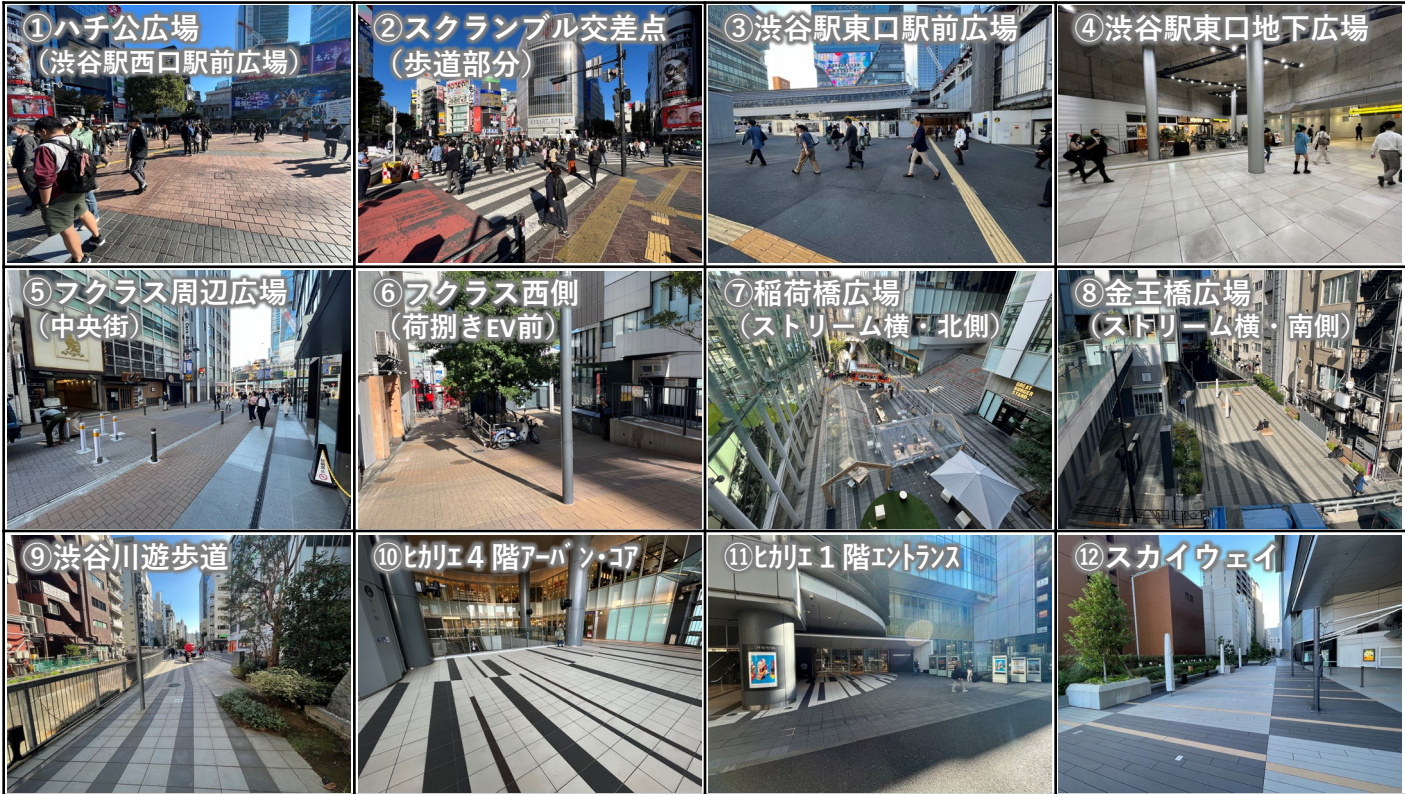
これまで来街者の意見を聞く機会が無かったことから、Webアンケートにて来街者が渋谷の広場に対して思っていることを調査しました。

(1) 調査の概要・対象者

- 調査方式：Webアンケート形式
- 調査日：2023年12月22日（金）
- アンケート対象者：直近1年以内に渋谷の広場を訪れたことがある人を対象。
- サンプル数：400票（統計上の有意水準を考慮した票数を設定）

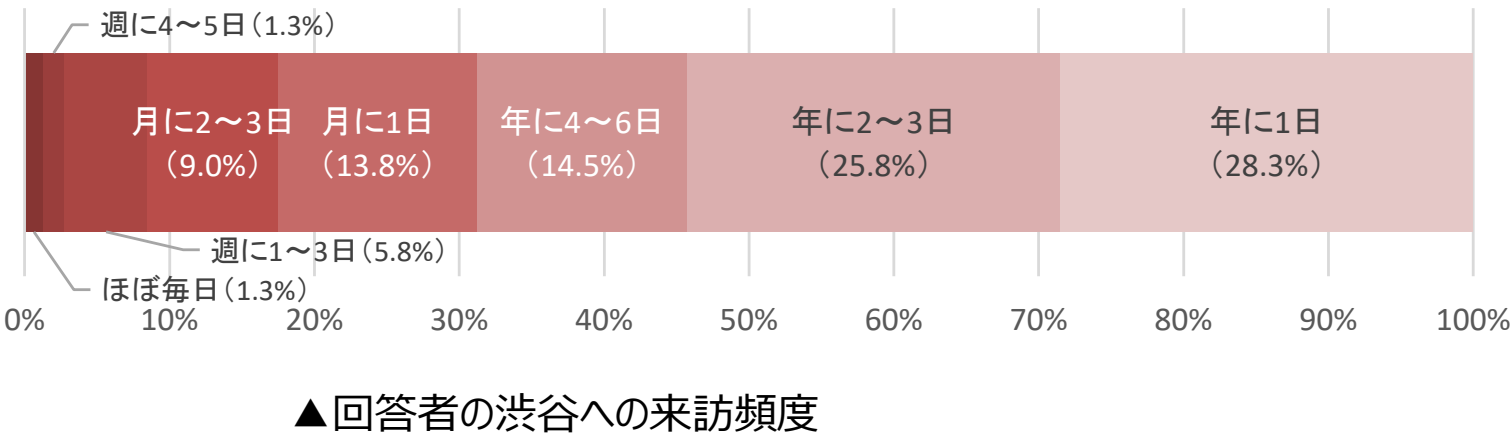
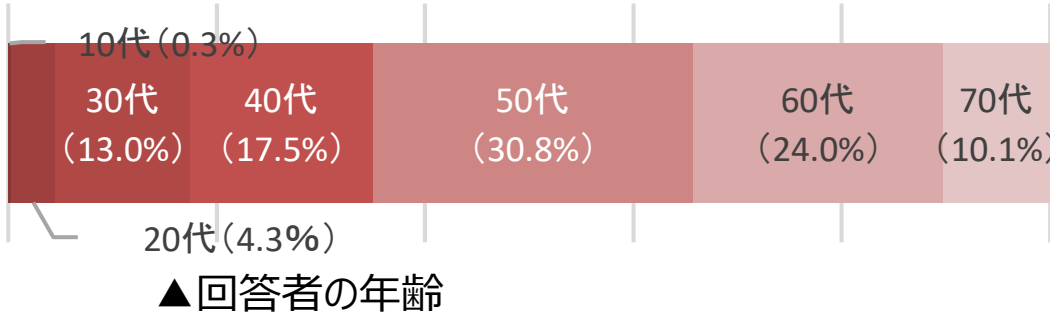
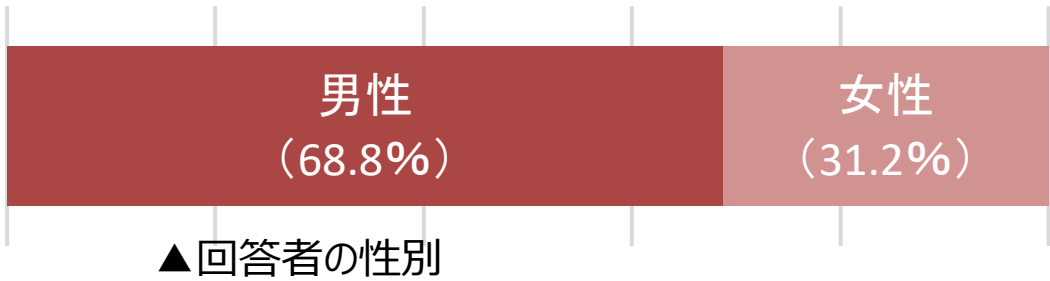
(2) アンケート対象の広場（広場的空間）

- 以下に示す広場、広場的空間についてアンケートを実施しました。
（広場ビジョンの対象広場で現況、もしくは将来の広場的空間として存在するもの）



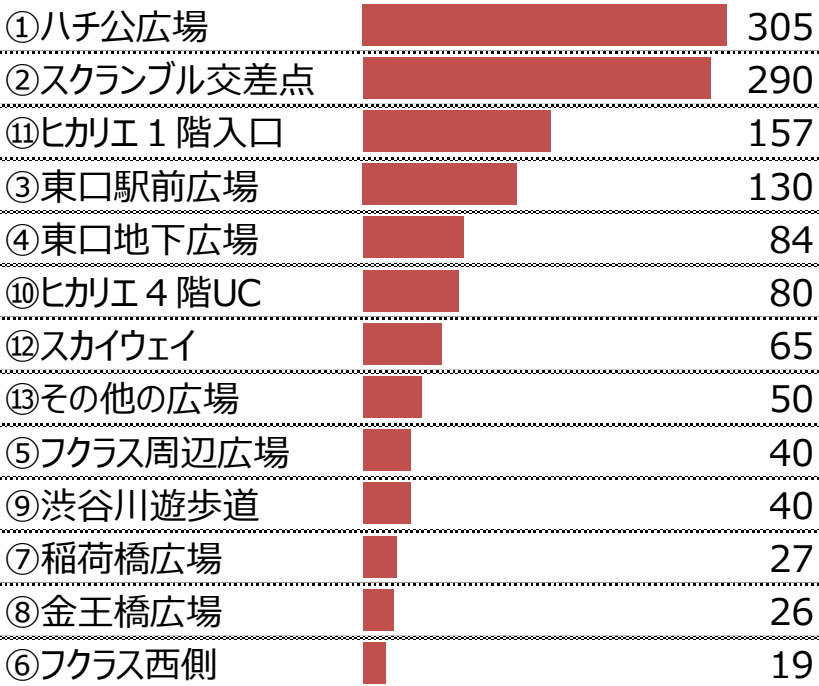
(3) アンケート結果〔属性〕

■ 性別・年齢/渋谷への来訪頻度



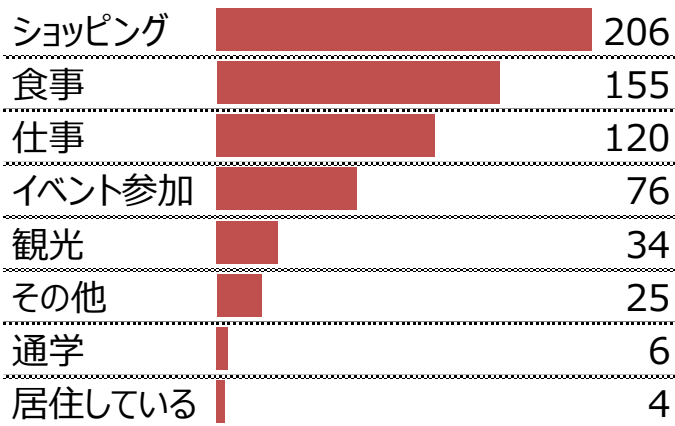
(3) アンケート結果

■ 渋谷の広場で行ったことがあるところ
(複数回答)



▲ 行ったことがある広場

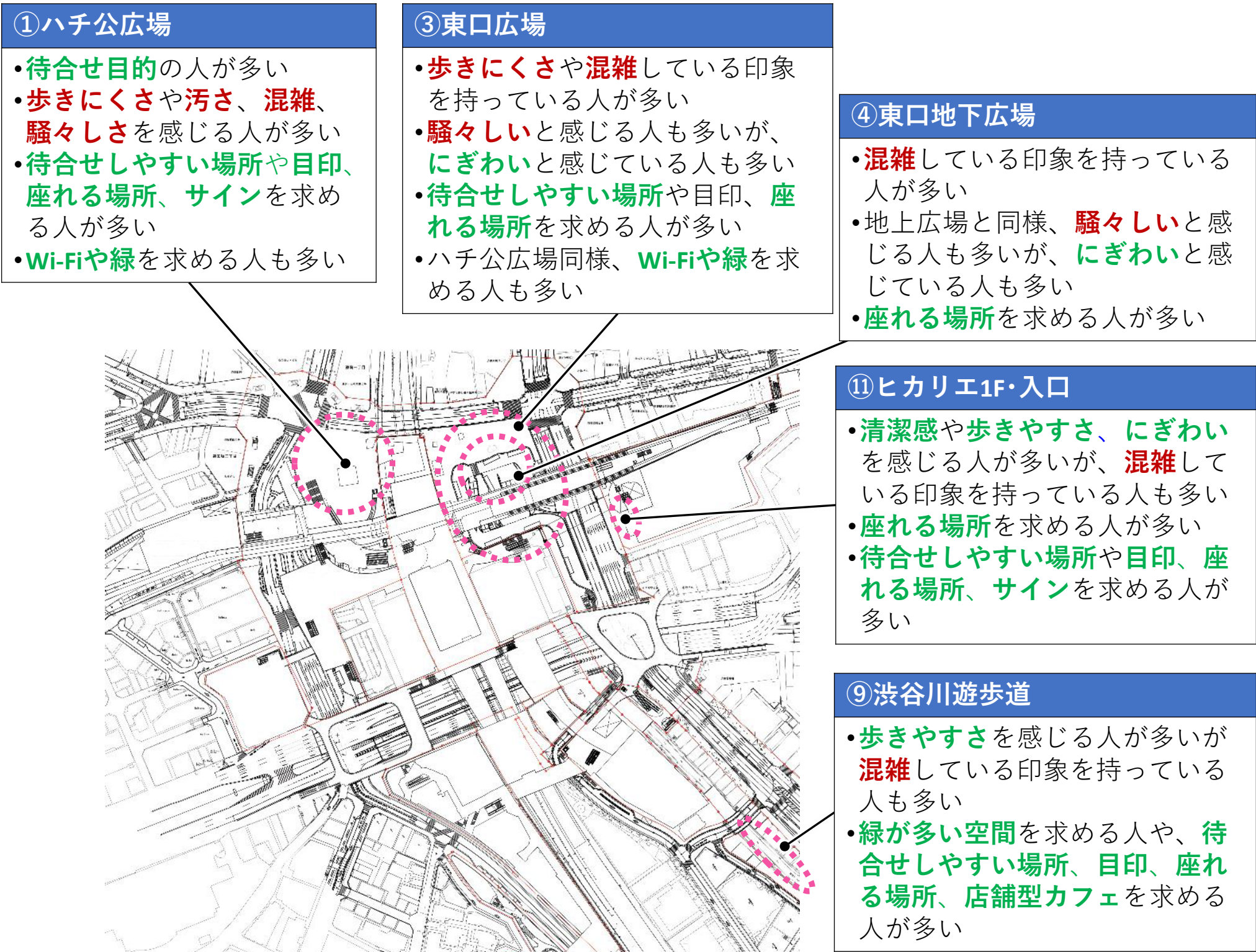
■ 渋谷への主な来訪目的 (複数回答)



▲ 渋谷の主な来訪目的

■ 各広場に対する意見 (最大5つ回答/各広場の回答結果から一部抜粋)

▼ 各広場の印象/各広場に求めること



5 ヒアリングやアンケート結果のまとめ

<管理・運営面で期待されていること>

- 地元や個人も利用できる公共性の高い利用方法
- 周辺のまちの雰囲気も含めた広場の活用
- ルールのもと、適正な使い方で広場を使う人が増えること

- 多様な広場や活動の、緩やかな相互連携
- 広場の使用に関する情報の共有・可視化
- 安全関係等、情報を一同で共有できる場
- 関わる人たちが皆で同じテーブルで話す場

<管理・運営面で課題となっていること>

- ゴミが捨てられている
- 防災面で一時的に人が滞在できる空間が少ない
- 人の量に対して広場が狭く安全面が課題
- 使われ方により治安が悪くなっている
- 混雑や歩きにくさ

- 安全な広場にするための警察との連携
- 広場の空き情報やルールなどは個別の確認

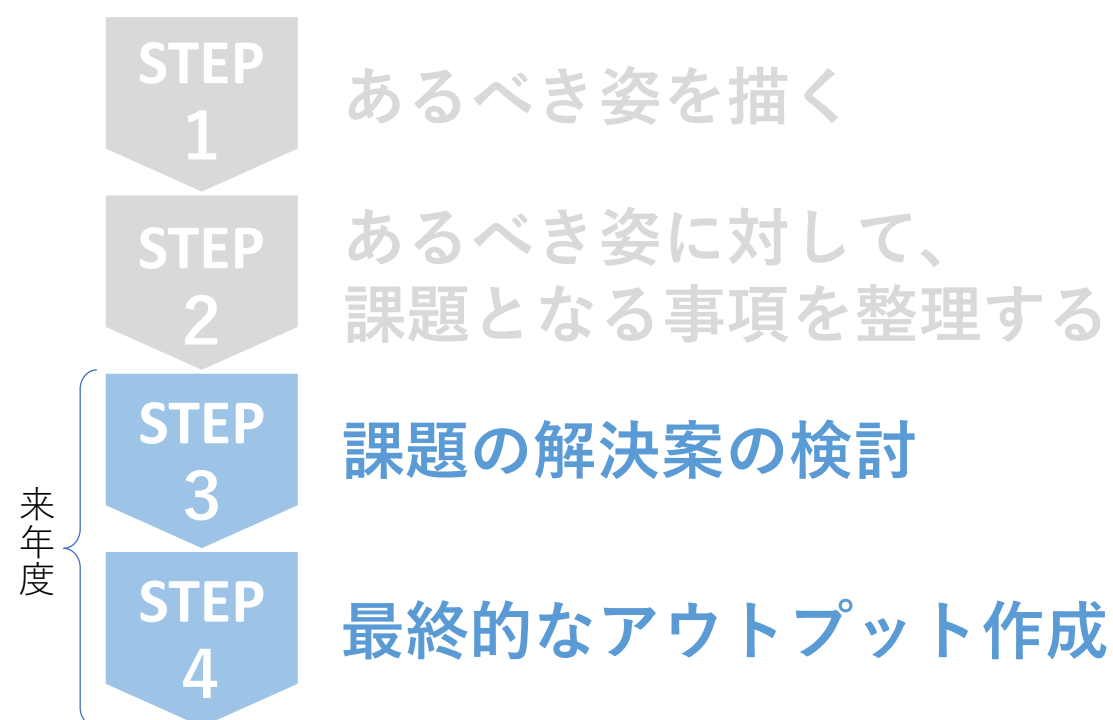
<広場のあるべき姿に向け
今後具体的に検討すべきこと>

使い方のルール
に関すること

情報共有・連携
に関すること

6 今後のスケジュール

- ・行政会議と地元会議で連携しながら、引き続き広場の管理・運営に関する議論を深度化させます。



まちづくり調整会議・
広場空間等検討委員会



地元調整協議会・
防災・にぎわいなど広場分科会

東西地上広場については、2022年度より大山街道整備事業と一体でデザイン検討を進めている。

広場整備スケジュールを踏まえ、2024年2月26日基盤デザイン調整WGにて以下確認済。

東口：デザイン確定（トップライト等一部検討継続）

西口：東西連関などデザインの基本的な考え方を確認

【考え方】大山街道を軸に植栽・照明等を連関させ、東西広場でそれぞれのコンセプトを基にデザイン検討を実施

大山街道（宮益坂・道玄坂）のデザインコンセプト

2024.2.26第39回渋谷駅中心地区
都市基盤施設デザイン調整WG資料

人を“自由”にする緑の都市軸“スクランブル”ウォーク

渋谷の歴史的東西軸＝大山街道

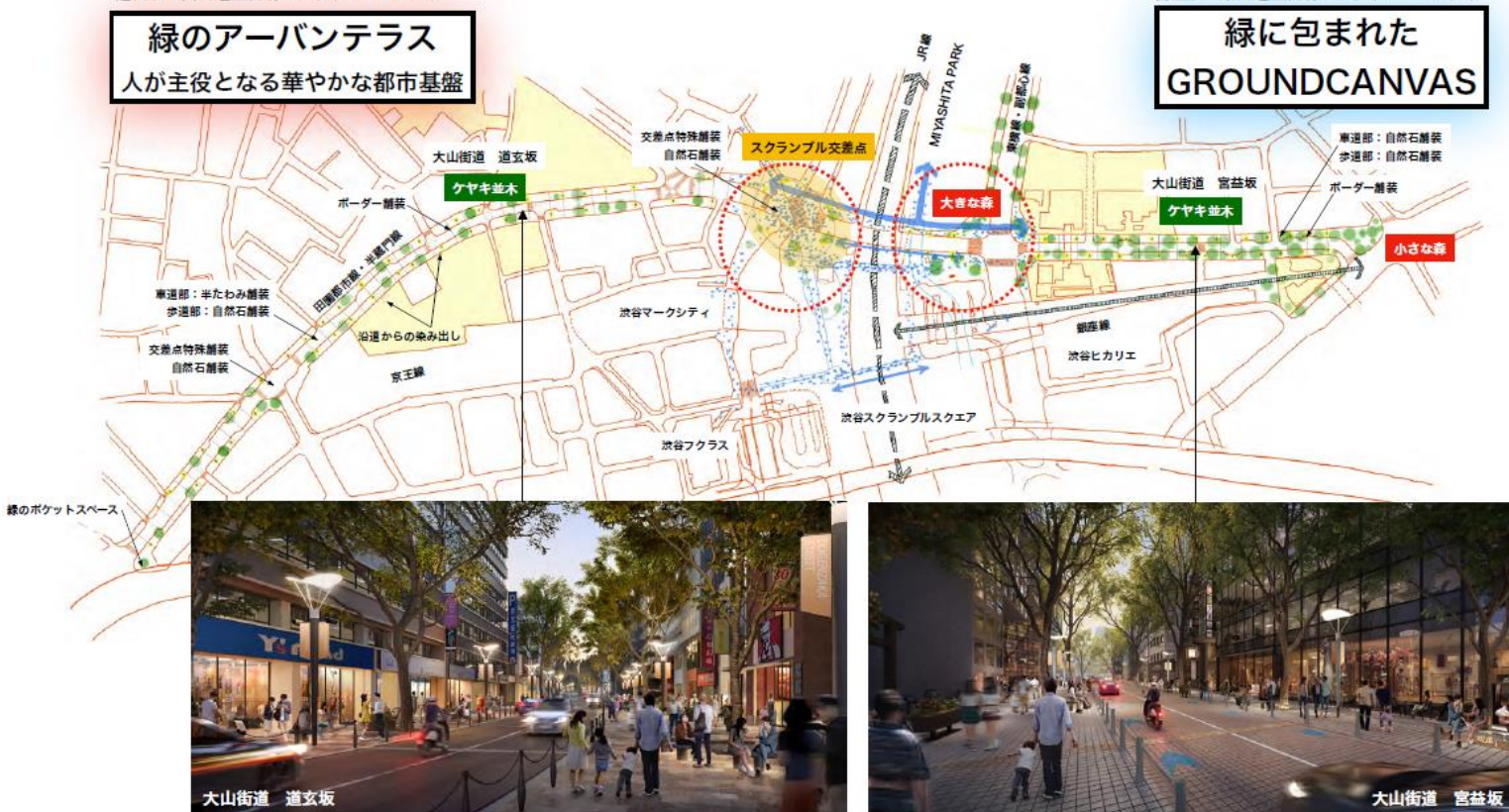
道玄坂・西口地上広場のデザインコンセプト

緑のアーバンテラス

人が主役となる華やかな都市基盤

宮益坂・東口地上広場のデザインコンセプト

緑に包まれた GROUND CANVAS



東口地上広場のデザインについて

【コンセプト】緑に包まれたGROUND CANVAS

【考え方】・人々の様々な活動を引き立てるために、宮益坂・地上広場を一体の“キャンバス”と見立て、歩道部は白御影石舗装を連続させる

- ・宮益坂のケヤキ並木を受け止めるべく、広場から坂下交差点を大きな森として植栽を配置
- ・東口広場内の上屋は公共交通利用者の利便を第一に考え、乗換動線・広場利用・空間デザインを考慮して整備する方針とする

■舗装

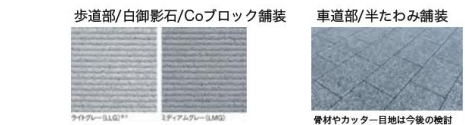
大山街道と東口地上広場を一体のキャンバスと見立て

歩道部は白御影石舗装を連続させる

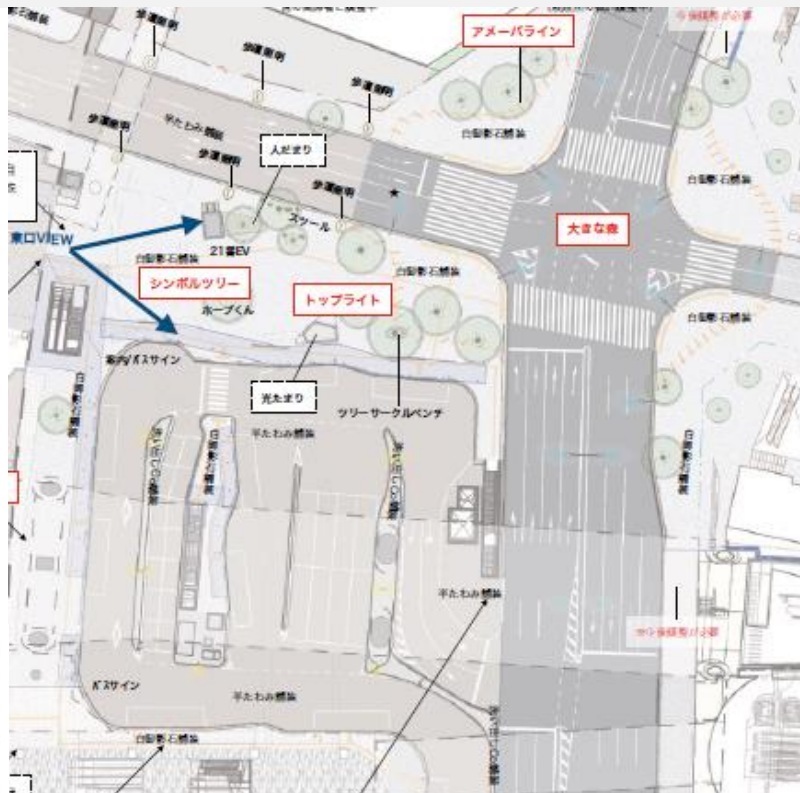
歩道部：白御影石舗装200mm角



歩道部：東西の人の流れ、歴史的東西軸を受ける舗装材
交通ロータリー：使用に耐える強度と質感を持つ半たわみ舗装



■植栽



2024.2.26第39回渋谷駅中心地区都市基盤施設
デザイン調整WG資料

地元からのご意見

宮益坂のケヤキ並木を活かしたデザイン
や大山街道デザインと連関した広場のデ
ザインについては賛同。

WG等での主なご意見

全体のデザインについては了解。
以下個別案件は継続検討。

シンボルツリーの配置は、周辺施設と
の見る見られるの関係を踏まえながら
調整すること。

交差点強調の仕組み（アメーバライン）
は管理方含め、検討深度化をする
こと。

トップライトの外装デザインや使い方
についても検討深度化をすること。

暗い空間となる懸念がある銀座線地下
空間については周辺施設と合わせてあ
り方を検討すること。

※本資料内容は現在検討中のものであり、今後、計画の進捗等に併せて変更の可能性あり

西口地上広場のデザインについて

【コンセプト】緑のアーバンテラス

【考え方】・ハチ公は象徴性と視認性の観点から、J R改札方面を向き、交差点との位置関係も踏まえアーバンコア大階段の正面に配置
・観光資源でもあるスクランブル交差点周り、ハチ公周りは特殊舗装や装飾照明を施して象徴化する

■ハチ公周りの空間



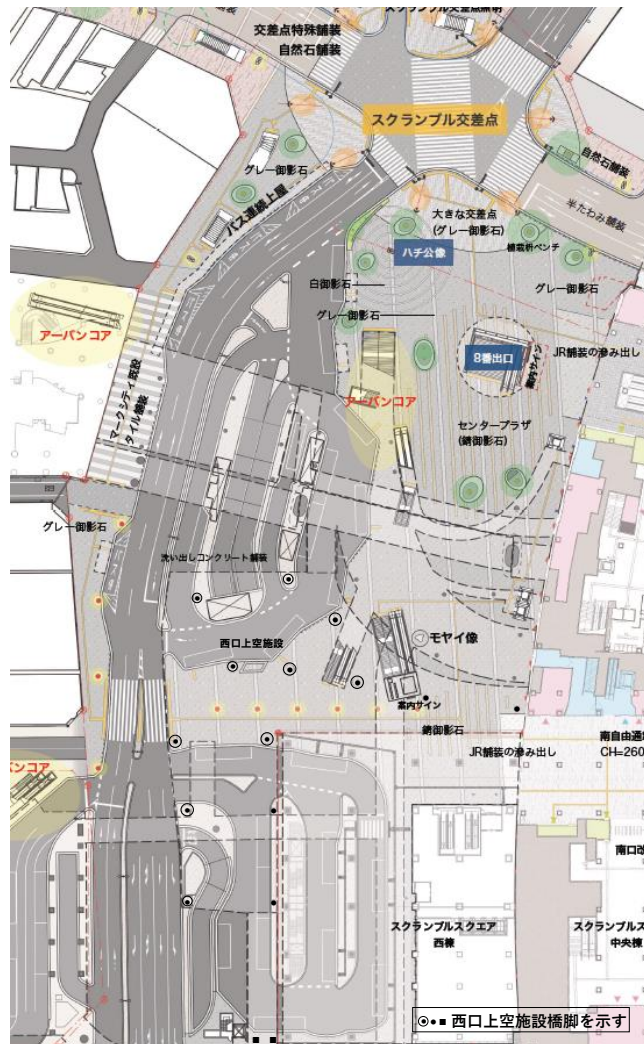
■舗装

スクランブル交差点を基準にシンプルなボーダーパターンで広場全体を秩序化。溜まり空間・結節点をサブボーダーでさりげなく面的に空間表現する。
スクランブル交差点を御影石で特殊舗装化し、接する歩道部も石畳として、「大きな交差点」を演出

【参考】石張りパターンイメージ



2024.2.26第39回渋谷駅中心地区都市基盤施設デザイン調整WG資料



地元からのご意見

大山街道と連関した広場のデザインについては概ね理解。

災害時の照明の在り方やフラッグの取り扱い等の詳細デザイン、および三菱銀行前のバスシェルのサイズやデザインは引き続き検討してほしい。

WG等での主なご意見

コンセプトやデザイン検討の大きな方向性については概ね理解。

ハチ公の配置についてはスクランブル交差点に近いので、バス停の配置と合わせて検討すること。

ハチ公周りの舗装パターンはかなり主張の強い同心円となっているが、ハチ公の空間としての在り方をよく考え、相応しいデザインを検討すること。

交番や観光案内所の将来配置についても合わせて検討すること。